

## 2015 年度

### 学校関係者評価委員会第 2 回議事録

日時：2015 年 10 月 16 日(金) 19 時～20 時 20 分

場所：15 教室

出席者： 山野 晴雄氏      小泉 昌広氏      永井 純氏  
列席者： 八尾 勝氏      湯浅 慶氏      倉持有希子氏      上松 剛氏      林 恵子氏  
欠席者： 吉野たけし氏

#### I. 聖書日課 ルカによる福音書 16 章 13 節

YMCA・YWCA 共通の聖書日課「日々の糧」より林事務長が聖句とその解説を朗読した。

#### II. 議事

##### 1. 前回の「記録」と「まとめ」確認

八尾校長が配布された前回の記録を基に要点を述べた後、本日の委員会の目的は PDCA サークルのアクションを進めることであるとの説明があった。各学科長からのアクション案をもとに本日の質疑応答、意見交換が行われることとなった。

また、八尾校長より議長の吉野氏が本日欠席の為、代わりに八尾校長が議長を行うことの説明があった。

つづいて各学科長がアクション案を下記の通り述べた。

##### 2. 次のアクション案

###### <介護福祉科> 倉持学科長

###### ①学生の減少へのアクション

学生の学力がさらに低下している状況ではあるが、今いる学生達を確実に卒業させていくことが重要であると考えている。衣類をたたんだり、食器を洗うといったあたりまえの家事（動作）もできない学生が増えているため、学習支援演習（ホームルーム）で、それをやらせてみた。今できない学生も繰り返しやることで身につけさせたい。その他にも実習をイメージできるような授業を工夫したいと考えている。

###### ②国家試験義務化へのアクション

点数のとりやすい所をまず確実に勉強させ、土台をかためてゆきたい。

###### ③ブランディングについて

学生達のレベルが年々低下してゆく中で、何をブランディングとしたら良いのか、正直わからない。模索してゆきたい。

###### <作業療法学科> 上松学科長

### ①ブランディングについて

学校の明るい感じ、教員と生徒の関係が近くて仲の良い感じを大切にしたい。オープンキャンパスでも意図的に使っている。

YMCA への信頼感をもっている人も多い。YMCA というブランドをもっと活用したい。委員のアドバイスにあったようなプラスアルファを考えていくことができないか。ファッション業界で体の中からきれいになるということで栄養学を教えている、そのような視点で考えられないだろうか。

### ②アピールポイントについて

上記ブランディングと密接に関わるが、「人を援助するのはカッコイイ」をうまく表現してゆきたい。

### ③種を植える

職業体験は即効性はないが、学校としてできることはないかを検討したい。

### ④作業療法教育の新しいモデル

研究はできないが、実技をやらせたら右に出る者がいないという卒業生を輩出する。職業人・臨床科を育てる専門学校ならではの教育モデルがあっても良いのではないか。今、実施中の実習でも、評価などの実技はできている、と言われている学生がいる。実技に力を入れてきた成果が少しずつ出てきている。

### ⑤学力の低い学生へのアクション

さまざまな工夫が少しずつ結果に現れている面もあるが、手をかえればかけるほど自分で考える力を削いでいるのではないかと感じることが多い。その点をふまえて現在行っていることを継続してゆきたい。

●確認テスト、自習勉強、縦割り班活動・・・など

### ⑥国家試験合格率アップへのアクション

模擬試験の後、もう1回同じ模擬試験を回答させ、当然点数が上がってゆくが、その繰り返しの中で確実に身につけさせてゆきたい。

専任教員が担当学生をあらかじめ決め、個別指導を行う。

## 3. 質疑応答・ディスカッション

山野委員：介護福祉士、作業療法士にむいていない学生は入試の段階でわからないのか？また、そういう学生への対応はどうしているのか。

倉持学科長：入試の面接で、人に対する共感性が少ない者についてはだいたい判断できるが、経営上の問題や今後の伸び白に期待して入学させている。

入学後は、実習を通して介護のおもしろさをわかってもらうよう努力している。高齢者に関わることだけが介護ではなく、障害者に関わることで介護に興味をもてる場合もある。

入試の段階で身体に障害がある学生が受験してきた場合は、入学後の授業内容や体の動作で求められることを本人と保護者に説明し、自己決定してもらう。

上松学科長：入試の段階では、病的な人は不合格としている。それ以外で入学してきている学生は素質的には良い学生達が入学している。

在校生の中にOTとして適性が無い学生はいないが、OTに気持ちが向かない学生が1名いて、どうしたら気持ちを動かすことができるのか悩んでいる。

倉持学科長 モチベーションが低下している学生への対応は、対応教員を代えてみるようにしている。教員との相性もあるので効果的である。

山野委員 教員同士での情報交換はとても大切である。高校の教員はこの点が苦手。

永井委員 目的やモチベーションが持てない学生は、どのタイミングでこれらが変わっていくのか？

上松学科長 実習がきっかけとなる場合や、病院見学や当事者と関わる演習を通して変わることもある。

永井委員 病院や施設でのボランティア経験の機会をもっと増やしてみてもどうか？卒業生を利用して現場にもっと入る機会を増やしてみても？

倉持学科長 介護福祉科では試みている。3つの特養が協力して行った「3園キャンプ」(特養を知ってもらうプログラム)に学生を参加させたらとても良い刺激を得て別人のようになった学生が1名いた。

永井委員 私の勤務先病院では毎週月曜日の7時半から道德の授業という時間を設けている。職場の中で就業意識が低い人に対してこういう機会を通してモチベーションを上げている。

学生達も現場のOTや介護福祉士から直接話を聞いたり、見たり、関わることでギアチェンジが出来ると良いと思う。

湯浅学院長 介護福祉科は学問として随分体系化され、むずかしくなったことが学生のモチベーション低下に影響していないだろうか？

倉持学科長 2009年度から新カリキュラムに変わり、介護を中心に置き、他の分野をつなげていっている。系統立ててやることは必要だと考えている。

学生はコミュニケーション力と個人の力の両方をつけていかなければならない。今の2年生はコミュニケーション力やチーム力はついたが、個人の力が弱い。実習で個になった時つぶれてしまう傾向がある。

小泉委員 卒業生の力を是非もっと使ってほしい。就職も困らない分、目的意識が弱く、どういう介護職員になりたいのかがわからないのだろう。こういう学生に対してはやはり現場に出ることが効果的だと思う。実習では評価がついてしまうが、実

習前に強制的にでもボランティアに出してはどうか。

永井委員 病院や施設でも人材確保のために色々努力している。中学生、高校生対象の現場体験も行っている。

小泉委員 次の就職先がすぐに確保できる介護職は、すぐに辞めてしまう傾向にあるため、現場ではつなぎとめるための努力をしている。

倉持学科長 就職に関しては学生達の意識を高めるために、またミスマッチを防ぐために、丁寧な指導をしている。新カリキュラムになってから色々な実習先に行くようになり、逆にどこが自分にむいているのかわからない学生が多い。しかし自分で迷い、自分で決めさせるように指導している。3年後、5年後のイメージをもって仕事ができるように伝えている。

山野委員 行政に対して、介護分野に進む学生減少について働きかけているのか？

八尾校長 月に一度、厚労省に出向き話をしている。都内の専門学校3校、短大1校が募集停止することも伝えていて、危機感をもってきている。介護の従事者が不足している責任は東京都にあるため、介護人材を増やすために1500万円の予算をつけてくれた。また、認定介護福祉士には国が年間200万円を付けると言っている。キャリア段位制度に対しても同様の動きが期待されている。

山野委員 高校との連携もさらに大切にしてくくと良いのではないかと。HPを充実させ、情報公開をしたことは評価できる。ブログの更新をもっと積極的に行い、学生達の成長をもっと伝える内容も盛り込んでみたはどうだろう。

#### 4. その他

林事務長より、今年度の会議は今回で終了であることと、報償費の領収証に所定の記入をして提出してほしいと説明があった。

### Ⅲ. まとめ

湯浅学院長より以下の通り挨拶があった。卒業生お二人からもっと卒業生を使い、学生を現場に出す機会を増やす機会を増やすと良いのではという提案をいただいたことに感謝する。キャリア教育は現場を知る中で達成できていくのだろう。学生募集では苦労しているが、人材を欲しいという現場の声に応えてゆきたい。

八尾校長が本日の委員会のまとめを以下の通り行った。

「学生の現状」「学生の入口と出口への対応」「卒業生の活用」について委員の皆様からのご意見、ご提案を活かしてゆきたい。介護福祉科では3年後にカリキュラムが変わろうとしている。倉持学科長は新カリキュラム検討委員会のリーダーを担い、上松学科長は国立市の福祉委員として関わることになった。両学科長が学外でも活躍し、最新情報を得てきてくれることも大変心強い。

最後に八尾校長より次年度の委員に今回の委員の皆様に再度お願いしたい旨の説明後、出席委員全員が了承し本日の会議を終了した。

記録 林恵子